

おひさま通信

言葉を通じて
仲間どうしの関係を
深めた、Aさん

大地

大きな声で笑い、職員・仲間と楽しく話し、時には大きな声を出して怒ったり、感情豊かで誰に対しても思いやりのある元気なAさん。私が大地で働き始めた頃は、Aさんは声を発する事が難しい状態でした。

突然「言葉が出ない」

約20年前、夕食中に突然声が出せなくなり職員と視線も合わなくなってしまう、何とか動く左手を動かして「言葉が出ない」と、指で書いて教えてくれたのが失語の始まりだったそうです。AさんはAHC(小児交互性麻痺)という発作的に左右交互に麻痺が出現する原因不明の疾患を持っています。麻痺の誘因はストレス、心的動揺、疲れ、原因不明などいつ麻痺が出てもおかしくない毎日を過ごしています。

言葉が出なくなってしまった当時、



係もお互いに慣れてきた頃、いざ私がおひとりで担当することになったとき、Aさんから突然「大嫌い」という言葉を言われたのを覚えています。

その当時、正直私自身はAさんと仲良くなれてきていると勝手ながら思っていたので、とてもショックな出来事でした。

今考えると、やっと話せるようになったことで「これからたくさんお話できる！」と思っていたのに、言葉が話せるようになったきっかけでもあったY職員が担当ではなくなってしまう、「これからもっと仲良くなりたかったのに」という思いもあつたのではないかと感じています。

言葉で「ありがとう」と
言い合える関係に

ここ数年、Aさんと仲間の関わりがとても良好になってきているなど感じています。言葉が出なかった時は「仲間どうし」と言うよりも「職員とAさん」といったように職員との関わりが多いような印象でした。

今は、食事がなかなか進まない仲間「おいしくい！」と言って食べるお手本を見せてくれたり、「○さん、かわいいく！」「ありがとう、Aさんも可愛いよ！」等、会話が積み重なり、仲間どうしの関係が毎日深まっています。

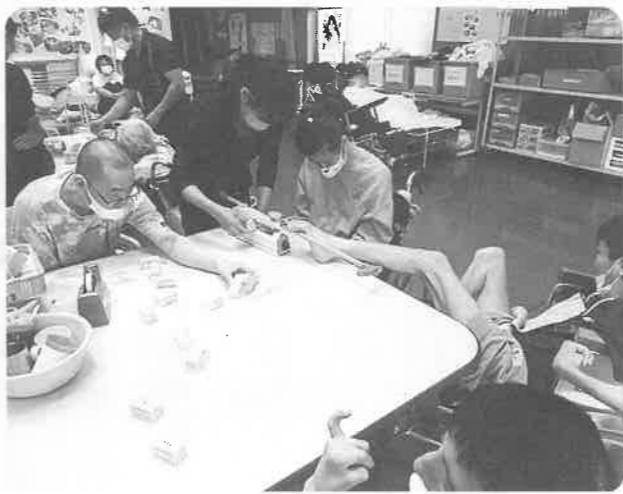


大地職員 平山 友梨

「イエス・ノー」や物の名前、簡単な単語などポンポンと言えるようになっていました。「奇跡が起きた。もう話せないかもって言われてたから」と嬉しそうに何度も話していたのを今でも覚えています。

気が付けば「昨日ね、○○さんとこのいうことがあって…」など長い言葉も言えるようになり、仲間どうしでの関わりもどんどん増えていきました。心なしか、笑顔もとても増えてきているように感じました。

なぜAさんが言葉を話せるようになったのかを探ってみたところ、長い療養生活を経て亡くなった父の告別式に参列でき、最後まで父を見送ることができたこと、Aさんが大好き



だった担当のY職員が、長い時間をかけ丁寧に関わっていたことが背景ではないかと考えられました。

言葉を話すことができなかった頃のAさんは、普段のモヤモヤしていることや些細な悩み、悲しかったことなどをため込み、それが爆発して行動に移して怒りを表わしていることが多い印象でした。

話すことが出来るようになってからは、日々のモヤモヤしていることを職員に相談することが出来ることなど感じています。そのおかげか、以前よりも怒りの感情をそのままぶつけてしまうことがずいぶん減ってきたように思います。毎日の些細な会話ややり取りがAさんにとって大事なことであり、安心して過ごせる材料になっていっているように思います。

普段から「話す」ということを当たり前にして過ごしてきた私は、Aさんの話せるようになっていった過程を見て「話す」ということを通し人に気持ちを伝えられることで、こんなにも安心して暮らせるんだ、という言葉をAさんから教えてもらったように思います。

「大嫌い」と言われて

私が大地に入職してから最初の数か月間は、Y職員と私の2人でAさんの担当をしていました。Aさんとの関

だつたこと、どうしたらよかったかなどを相談できたり、自分なりに工夫をしているように思います。

時々麻痺があつたり体調を崩してしまうこともありますが、これからはAさんとたくさん話をしたり、楽しいことを一緒に経験したり、時々けんかをしたりしながら、笑って毎日過ごせればと思っています。

そして後から思い出したら笑い話になるような思い出をたくさん作れたらと思います。